



解答と解説は 22 ページにあります。

新聞で
読解力アップ!

Do
チャレ

ワークシート

ウナギ稚魚不漁 今年も

二ホンウナギの稚魚シラスウナギの国内漁獲量が今期3・7トントどまり、水産庁の統計がある2003年以来、過去最低だったことが25日分かった。輸入量は過去2番目に多い11・5トントで、全量が実際の漁獲場所が分からず、密輸が指摘される香港産だった。

香港産の稚魚は今期に国内の養殖池に入れられた量の75%を占め、27日の土用の丑の日に消費のピークを迎える日本のウナギの流通が、不明な輸入品に依存している実態が鮮明になった。

来月、ジュネーブで開かれるワシントン条約の締約国会議は、ウナギの資源保護のために国際取引の透明化やトレーサビリティ（生産流通履歴）の強化が議題になる。日本のウナギ消費への批判が強まりそうだ。

水産庁や国内のシラスウナギ漁関係者によると、昨年11月～今年5月の漁期は日本全域で極度の不漁だった。漁獲量はこれまで最少だったたった2006年の27・5トントの13%にどつた。

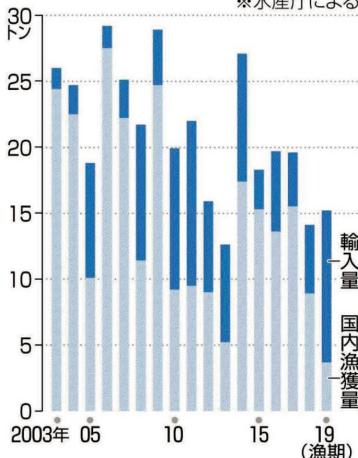
国内過去最少3.7トント

二ホンウナギの稚魚シラスウナギの国内漁獲量が今期3・7トントどまり、水産庁の統計がある2003年以来、過去最低だったことが25日分かった。輸入量は過去2番目に多い11・5トントで、全量が実際の漁獲場所が分からず、密輸が指摘される香港産だった。

読解力は学力の基本です。記事を読んで、問題にチャレンジしよう。



二ホンウナギ稚魚の池入れ量
※水産庁による



中央大准教授（保全生態学）の話
減少が目立つ二ホンウナギの保全の傾向にある。これらの多くが中国の養殖池経由で日本の市場に出回っている可能性があるという。

漁獲と流通透明化を

ウナギの生態に詳しい海部健三・シラスウナギの統称。二ホンウナギの場合は、太平洋のグアム島周辺で生まれ、海流に乗って日本沿岸などに回遊、河川に上る直前のもの。形は小さなウナギだが色が透明に近いためこの名がある。卵から孵化させて養殖するのが商業ベースでは困難なため、国内外で採捕したシラスウナギを育てた養殖物が、日本のウナギ消費のほぼ全てを占める。

ためには適切な資源管理策を導入することが急務だが、不透明な漁獲と流通が続いていることによって、正確なシラスウナギの漁獲データを得ることができず、資源量の推定が困難になっている。資源量が推定できなければ適切な漁獲量の上限を設定することができないため、二ホンウナギの持続的な利用の実現も難しい。ウナギを末永く、持続的に利用するためには、シラスウナギの漁獲と流通の透明化が不可欠だ。

およそ

%

- (1) ■とありますが、今期（2019年）に国内の養殖池に入れられたシラスウナギの量は2006年のおよそ何%ですか。グラフをもとに計算して整数で答えなさい。

①

②

- (2) ■とありますが、批判が強まるのは、日本が輸入しているウナギにどのような問題点が指摘されるためですか。輸入している①シラスウナギと②養殖ウナギについて、それぞれ具体的に説明しなさい。